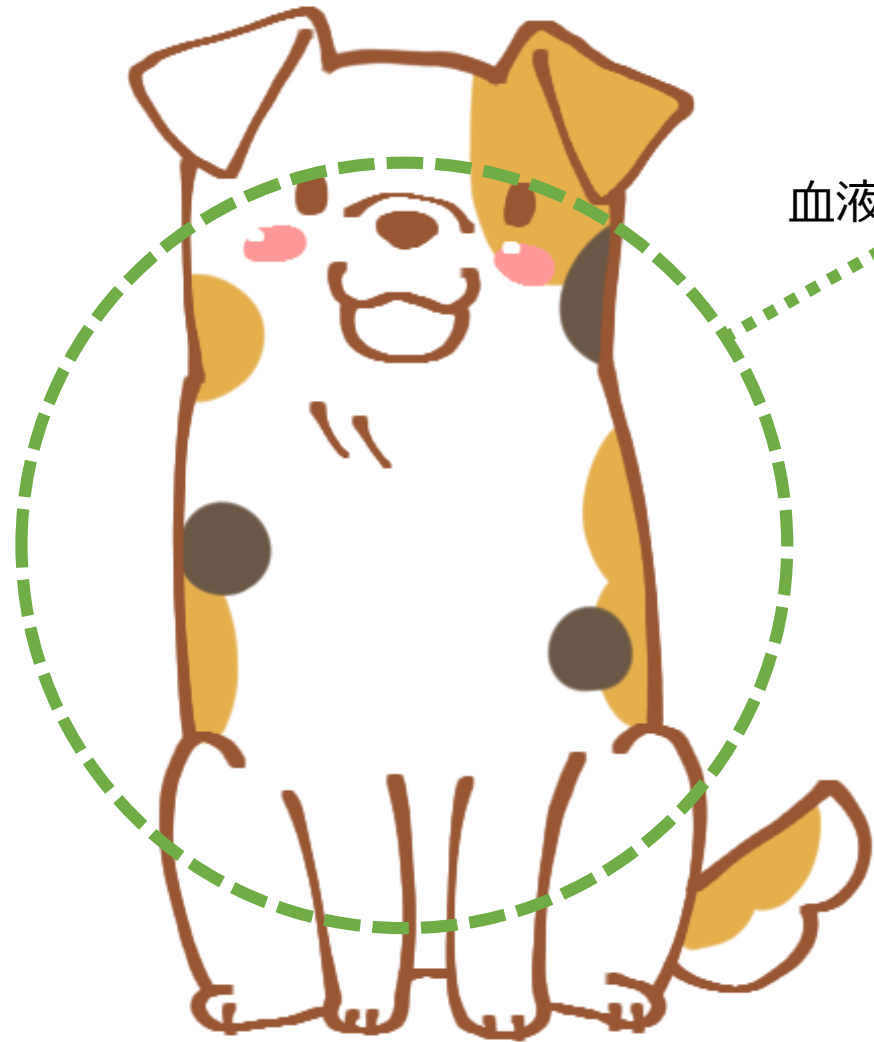


TNS 遺伝性好中球減少症



血液

TNS 遺伝性好中球減少症とは

好中球が骨髄に捕捉されるために血中の好中球が減少するために感染症にかかりやすく、生後間もない時期に死亡することが多い疾患です。
発症した子犬は同腹犬よりも小さく、高熱、下痢、歩行困難などが、早ければ生後2週間から遅くとも7ヶ月齢までに見られます。

代表犬種

ボーダー・コリー

発症年齢

6週齢から発現し、多くは4, 5カ月齢で死亡

TNS 遺伝性好中球減少症は 常染色体劣性（潜性）遺伝です。

ノーマル（クリア） AA

野生型のみ検出される（変異が検出されない）場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。またその遺伝子変異による疾患は後代に遺伝しません。

キャリア（ヘテロ接合） Aa

野生型と変異型の両方が検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは低い**です。

ただし、他のキャリア、もしくはアフェクテッドの個体との繁殖は、対象となる疾患の発症リスクが高い子が生まれる可能性があるため、配慮が必要です。

アフェクテッド（変異ホモ接合） aa

変異型のみ検出される場合です。
その遺伝子変異が原因となる疾患の**発症リスクは高い**です。

遺伝子は父親と母親からそれぞれ受け継いだものがペアになっています。右図のように片側に変異を持つ場合はヘテロ接合となり、劣性遺伝の場合はキャリアと表記します。

